

以下は、2019年度に東アジア圏へ長期留学した学生による留学関連情報と最終報告書です。番号①：静宜大学 ②：開南大学 ③-④：釜慶大

⑤-⑦：カトリック大 ⑧-⑩：誠信女子大

①

留学先	台湾・静宜大学
留学期間（半年/1年）	半年
留学開始時の学年	2年生
派遣先での受講した授業と時期	■語学センターの授業 →■秋学期（9月上旬～1月上旬） ■学部の授業 →■秋学期（9月上旬～1月上旬） →□現地学生メインの授業 ■留学生メインの授業
宿舎	■学生寮 →寮費に食事が含まれるか： 食事提供はなし。寮は料理禁止だったため、キャンパス内の食堂やコンビニ、周辺の店で食事をしていた。 →ルームメイトの国籍と人数： 部屋は4人部屋。基本的に同じ国籍か同じ言語の人と同室になる。申請すれば、現地の学生や違う国籍の人とルームシェア可能。 →水道光熱費も含んだ寮費： 1セメスター分を一括で支払う。水道費、光熱費、インターネット代込みでNTD12,500（JP40,000）。エアコン代のみ別。 →夏休み・冬休みも寮に滞在できるか： 申請し、滞在費を支払えば滞在できる。しかし、長期休暇中はキャンパス内の食堂やコンビニは休業している。
スマホ・携帯電話は どうしていたか	日本からSIMフリー端末を用意して現地でSIMカードを購入 →金額など詳細：台湾のLTE対応Band（1/3/7/8/23/28）に対応したSIMフリースマホを家電量販店で購入。SIMカードは学内の図書館や購買で購入可能。または、留学生は到着日に寮の一階ロビーで購入できる。値段は通話なしのインターネットのみ、半年のみ使える学生用でNTD7,000（JP28,000）。
現地での資金調達は どうしていたか	VISA利用可能なATMが海外に多いため、三菱UFJ銀行に口座を作り出国前にまとまった金額を入金した。現地ではデビットカードでお金を引き出していた。手数料がかかるため、一回の引き出しで1か月分の生活費を引き出していた。

現地で困ったので日本で準備した方が良かったこと	日本から衣服やインスタント食品やお菓子を送ることはできたが、コンタクトレンズや化粧水などの美容製品、薬は税関で引っ掛かり受け取ることができなかった。日本に送り返すことも可能だが、日本の税関でも引っ掛かり一部しか受け取れなかった。コンタクトレンズや洗浄液、医薬品などはかさばるが優先的にキャリーケースに入れるべきだとおもった。衣類は現地のH&M、GU、ユニクロ、夜市で安く購入することができる。
留学を考えている後輩へ伝えたいこと	留学を有意義にするには中級程度の語学力が必要だと思います。自分で活動するプログラムを見つけ、自ら参加しないと時間が余り有意義なものにはできません。そのため、最低限、自己紹介や趣味について雑談できる程度の語学力が必要になります。また、自ら話しかける積極性やコミュニケーション能力を身に付けてから出発するべきです。

留学最終報告書

私は9月4日から1月12日までの1セメスター、台湾の台中にある静宜大学に留学しました。静宜大学は語学教育に力を入れているため留学生数も多く国際交流も活発でした。中国語以外にも英語を学ぶことが出来ると考え静宜大学に留学を決めました。実際、世界各国の留学生が在学し、交流の機会は豊富にありました。この留学を通して成長できた点を3つ挙げます。

1つ目は英語と中国語の語学力を上げる事ができた点です。

授業は中国語のクラスの他に英語と日本語のクラスを選択しました。日本語のクラス以外は英語で行なわれました。中国語のクラスは細かくプレースメントテストにより分けられ、自分に合ったレベルのクラスを受ける事ができました。毎日朝8時から2時間あり、週に単語のみと単元全体のテストを2回受け、毎週月曜日には1分間中国語でスピーチをするなど会話と文法でバランスのとれた授業でした。

英語のクラスは Taiwanese culture、Cultural Learning、Travel English、Movie English を選択しました。すべての授業で記述テストなく、プレゼンテーションとレポートで評価されました。中間テストは主にグループでプレゼンをし、期末は個人でプレゼンをしました。Cultural Learning は留学生のために開講された授業で様々な国の学生と交流することができました。テストの代わりに行なわれたプレゼンテーションでは各国の文化を紹介し日本との相違点を知ることができました。また、授業では校外学習が行なわれ、日月潭などの観光地に行き台湾の歴史を学ぶことが出来ました。Travel English と Movie English は台湾の学生と一緒に受講しディスカッションをしました。授業では毎回ディスカッションの内容を発表し先生から様々な質問されました。講義を聴く授業の多い日本の英語も授業とは異なり、生徒が英語を話すことに重点が置かれている授業でした。そのため、留学初期はなれない授業形態に戸惑い、予習復習に時間がかかりました。また、会話やプレゼンの多い授業は英語を使うため意見をうまく伝えられず悔しい思いをしたが、それらを乗り越えやりぬいたことは、大きな自身になりました。

2つ目は日本について学び直す事ができた点です。

日本語のクラスには日本語学科の台湾の学生のサポートとして参加しました。ビジネス日本語と初級日本語を選択しました。ビジネス日本語は日本のビジネスマナーや敬語を学ぶための授業で、日本語で会話の出来る3年生が主に受けていました。初級日本語は日本語初心者の日本語学科以外の学生が主に受講していました。日本語母語話者である私は自動的に文法を使いこなす敬語を話しているため、台湾の学生から質問されても説明の仕方に困ることが多々ありました。台湾の学生以外にもヨーロッパの学生も日本語に興味を持っている人が多く日本語を教える機会が多かったですが、日本人として日本語をわかりやすく説明することが出来ず悔しい思いをしました。

3つ目は行動力がついた事です。

限られた単位数しか取ることができないため空きコマが多く、放課後も時間が余りました。貴重な半年を無駄にするのはもったいないと思い、様々な活動に参加しました。日本語の授業にサポ

ートとして参加したり、部活動に参加したりしました。すでに出来上がったコミュニティーに参加することはとても勇気のいることでした。しかし、相手も初対面の人と話すのは同じように勇気のいることだろうと思い、自分から話しかけ会話を続ける努力をしました。会話を続けることで友達を増やすこともでき、放課後や休日に遊びに誘ってもらえることが増え、時間を有意義に過ごすことができるようになりました。新しい環境を過ごしやすくするには自分から回りに働きかけることが重要だとまなびました。

海外留学は他国の文化を学び語学を上達させるだけではなく、自国についても学ぶ事ができ視野を広げることができました。慣れない場所で生活することは非常に勇気のいる事でしたが留学を有意義なものにするには自主的に動く事がとても重要だと思いました。留学前は初対面の人と話すことがあまり得意ではなかった私でしたが、交流プログラムを通して様々な人と話をし、自分から相手に様々な質問し興味があるという事を態度で示す事がとても大切な事だとわかりました。自分から話しかけ友達を増やし何事にも積極的に動いた分だけ留学生活をととても有意義な物にでき、とても刺激的な留学生活となりました。この経験はこれからの生活や就職活動、社会に出てからも生きると思う。学んだことを忘れずにこれからの生活に生かしていけたらと思います。

留学先	台湾・開南大学
留学期間（半年/1 年）	半年
留学開始時の学年	2 年生
派遣先での受講した授業と時期	■学部の授業 →■秋学期（9 月 9 日～1 月 6 日） →■現地学生メインの授業 ■留学生メインの授業
宿舎	■学生寮 →寮費に食事が含まれるか： 食事提供なし。平日は主に学生食堂で食事していた。土日祝日は外食。 →ルームメイトの国籍と人数： 台湾人 2 人、日本人 1 人 交換留学生は台湾人と同室になるように部屋割りが組まれていた。 →水道光熱費も含んだ寮費： 水道光熱費、インターネットを含め月額約 14,000 円。 →夏休み・冬休みも寮に滞在できるか： 夏休み・冬休み共に寮を出なければならなかった。だが希望者は 1 日約 1,000 円で滞在可能。
スマホ・携帯電話はどうしていたか	日本から SIM フリー端末を用意して現地で SIM カードを購入 →金額など詳細： 学校に携帯会社の方が来てそこで SIM カードを買った。国際交流課の学生が通訳してくれたので安心だった。 インターネット使い放題で月額約 1900 円(海外電話は別料金)、保証金約 11,000 円(解約時に返金)。 毎月国際交流課に支払い用のバーコードが送られてくるのでそれを持ってコンビニで払う。校舎内にあるコンビニで支払うことができたので便利だった。
現地での資金調達はどのようにしていたか	国際デビットカード(SBI)を作り、日本にいる親から口座にお金を振り込んでもらっていた。コンビニや校舎内の ATM で下ろしていた。

現地で困ったので日本で準備した方が良かったこと	• 延長コード コンセントが机の下に2つしかなく、2段ベッドだったので寝る時にケータイの充電が不便だったため。 • 折りたたみ傘 地域によって天候が変わりやすいので持ち歩ける折りたたみ傘があるとよかった。
留学を考えている後輩へ伝えたいこと	中国語のレベルをある程度上げておくこと。また、学校の授業で習っている中国大陆の中国語と台湾の中国語は違うということを知っておくこと。大陸では簡体字を使いますが台湾では繁体字を使います。発音や単語も違ってたりします。私は台湾の芸能人の Youtube などを見て耳を慣らしていましたが、字には特に苦労しました。渡台までに全部覚える必要はないですが、心構えとして違うということを知っておいた方が良いかもしれません。

留学最終報告書：留学生生活を振り返って

私が台湾に留学したいと思うようになったのは、大学 1 年の頃でした。もともと高校生の頃から中国や台湾に興味がありましたが、その頃は行ってみたいなという漠然とした夢でした。本格的に留学を考えるようになったのは大学で第 2 外国語として中国語を勉強し始めてからです。日本語とは違う言語に触れることの楽しさ、中国人留学生と交流することの楽しさや拙い中国語が伝わった時の嬉しさを感じたのが留学を決めた大きな要因になりました。

半年間台湾の開南大学に留学して様々な体験をし、成長することができました。特に自分自身が成長できたと感じている点を 2 つ挙げようと思います。

1 つ目は中国語力を上がったことです。開南大学に交換留学生として留学する場合は応用日本語学科に配属されますが、基本的には自分が受けたい授業を受けることができます。私は中国語の授業をメインで取っていました。これらの授業は正規留学生である日本人の 1 年生と一緒に受けていました。自分より歳下であるが語学力は断然上です。授業は正規留学生のレベルに合わせて展開されていくためとても難しかったです。日本語が堪能な先生でしたが説明、質問、発表まで全て中国語で行われました。交換留学生だからといって優遇されることはありませんでした。留学生活が始まってすぐは慣れていない上に初めて聞いた単語だけで、先生の話が分からない状態でした。そんな状態ではもちろん授業についていくことはできなくて落ち込み、焦る毎日でした。放課後は図書館で勉強や授業で分からなかった所を台湾人の友達に教えてもらったり、寮に帰ったらルームメイトと辿々しくはあるが会話をし、動画サイトで動画を観るときは台湾のドラマや番組を観て音楽は中国語の音楽だけを聴いていました。そのような生活を送って 2 週間程で徐々に耳が慣れていき、分かる単語も多くなってきて授業にも前と比べてついていけていました。辿々しかった中国語も話せるようになり、より多くの人と会話することができるようになったので、自分がこの 2 週間してきたことは間違っていなかったのだと嬉しかったのを覚えています。

2 つ目は消極的な部分がある自分を変えることができたことです。私はもともと人見知りな上に消極的な所がありました。何をしてもうまくいかず、周り比べてしまっただけにさらに落ち込むということがしばしばありました。留学当初も「周りの人は出来ているのに私は出来ない」と比べてしまうことがありました。そんな中私は 1 つの言葉と出会いました。“不要跟别人比较”という言葉です。これは“他人と比べない”という意味です。この言葉を知ったときは胸を撃たれたような感覚でした。上には上がいるので他人と比べるよりは昨日の自分と比べて成長していけばそれでいいとまるで私に向けて言っているかのように思えました。その日から私は周りと比べることをやめました。今日の自分より明日の自分が成長しているように行動することを意識しました。以前より積極的に中国語を話すようになり、自分とは違う国籍の人やお店の店員に話しかけてみたりしました。その結果、自信がつき周りと比べることがなくなりました。この言葉に出会って意識したことによって消極的な自分を変えることが出来たと同時に、コミュニケーション能力も上がりました。あの言葉に出会っていなかったら私は消極的なままだったでしょう。

初めての海外、初めての留学で不安だらけでしたが今は留学をして良かったと心から思ってい

ます。語学面や精神面で成長できたこと、国境を超えてたくさんの人と出会い友情を築くことが出来たこと。これらは今後私が生きていく上での糧に必ずなっていくと思います。この留学生活は私にとってかけがえの無いものになりました。



留学先	韓国・釜慶大学校
留学期間（半年/1年）	1年
留学開始時の学年	2年生（1年生の春休み時出発）
派遣先での受講した授業と時期 語学堂オプション授業の金額（釜慶大学校は学部の授業の受講が必須。語学堂の授業はタームを問わずオプションにつき授業料は有料）	■語学堂の授業 →□春ターム □夏ターム ■秋ターム（9月～11月の10週）：約6万円 ■冬ターム（12月～2月の10週）：約6万円 ■学部の授業 →■春学期（3月～6月） ■秋学期（9月～12月） →■現地学生メインの授業 ■留学生メインの授業
宿舎	■学生寮 →寮費に食事が含まれるか：食事提供有り →ルームメイトの国籍と人数：日本人1人 →水道光熱費も含んだ寮費： 1学期約12万円（夏休み/冬休み期間も含む金額） 学期始まる前に申請して一学期分払い、休みに入る前にも申請して休み期間分を払っていました。 →夏休み・冬休みも寮に滞在できるか： 寮費を払えば滞在できる
スマホ・携帯電話はどうしていたか	現地で1年間ポケットWi-Fiを借りていた。
現地での資金調達は どうしていたか	日本でVISAカードを作り、日本にいる親から口座に振り込んでもらっていた。
現地で困ったので日本で準備した方が良かったこと	海外の薬は強かったりするから、飲み慣れている薬は多めに持っていくべき。大体の物は現地で買える。
留学を考えている後輩へ伝えたいこと	ある程度韓国語での会話はできていた方がいいと思います。時間に余裕があるのなら英語もしっかり勉強しておいた方がいいです。私が留学していた釜慶大学はいろんな国からの留学生が多く、韓国語が全く話せない方も多くいました。もちろんその時の共通語は英語になるので、英語が苦手な私は言いたいことを上手く伝えられず苦労しました。

留学最終報告書

2019年2月末から約一年間、韓国の釜慶大学に交換留学しました。海外に行ったことがなかった私にとっては初めての海外で一年間の留学はとても不安が大きかったです。しかし留学生を多く受け入れている学校ということもあり、空港から大学までバスで迎えに来てくださるピックアップサービスがあったり日本語や英語、中国語を話せる韓国人の生徒が入寮の説明をしてくださったおかげで不安が少し和らぎました。

次の日は新留学生のオリエンテーションや歓迎会があり、釜慶大学についての説明や授業についての説明を受けました。釜慶大学にはi-friendという外国人留学生をサポートしてくれる団体があり、そこで履修登録や銀行の口座の開設などを手伝っていただきました。

無事に履修登録もでき、本格的に韓国での授業が始まりました。

韓国は日本と違い一教科三単位取得できる授業が多かったので、単位制限でたくさん授業を受けることはできませんでした。私は前期、留学生用の韓国語の授業三つと韓国人と一緒に受ける日本語の授業二つを履修しました。日本語の授業を履修した理由は、将来自分が外国人に日本語を教えたいと考えていたので、どのように日本語の授業を行っているのか実際に日本語を学んでいる生徒と一緒に授業を受けて勉強したかったからです。日本語の授業をしている中で、韓国人の友達に日本語について聞かれる機会も多くあり、その意味を韓国語で説明することもあったので私も韓国語を話す機会にもなり、実際に日本人がよく使う日本語の言い回しを教えられたので日本語の授業を取って良かったと感じています。

韓国語の授業は英語で行う基礎韓国語Ⅰと全て韓国語で行う基礎韓国語Ⅱ、少し難しい内容の大学韓国語を履修しました。

基礎韓国語Ⅰは、基礎中の基礎で周りに韓国語を話せる人がいないような授業でした。

ここでは私は韓国語ができる方だったので、周りの友達に文法の使い方や単語の意味を英語で聞かれる機会が多くありました。私は英語が苦手なので思うように伝えられず悔しい思いをしました。しかし私の拙い英語をどうにか理解してくれている周りの友達を見て、英語の勉強にも力を入れていきたいと思いました。この基礎韓国語Ⅰでは英語と韓国語どちらも学べました。

基礎韓国語Ⅱでは、Ⅰより少しレベルが上がり日常生活でよく使うような表現や単語、文法を学びました。基礎といえ初めて知る単語や表現も多くあり、とても勉強になりました。

大学韓国語は、脳の健康法やことわざ、地球温暖化など難しい内容を取り扱う授業でした。この授業を受けているほとんどが韓国に来て二、三年の方で、韓国に来てすぐの私にとってはとても難しい内容でした。一単位にある単語や文法のほとんどがわからず、授業前の予習は必須でした。ここで初めて韓国語の語学の壁にぶつかり、一番はじめての試験で悪い点数を取ってしまい、とても悔しくて毎日単語や文法を勉強しはじめました。その甲斐もあって期末試験は難しいと感じることもなく、単位も習得できました。

授業のほかに、旅行サークルにも加入しました。加入してすぐに大邱に旅行に行く活動がありました。日中は6人のグループで大邱の街を観光し、夜にはみんなでご飯を作って食べ、夜中には全

員でゲームをしました。初めて大人数の韓国人と混ざっての活動ですごく勉強になることが多く、とても良い経験になりました。

後期からは語学堂にも通い始めたため、大学の授業は週四日で就職韓国語と韓国文化体験の二つの授業を履修しました。

就職韓国語は、名前の通りで就職に関する授業内容でとてもためになりました。履歴書の書き方などや履歴書の良い例と悪い例を比較することを授業内で行い、履歴書、自己分析、自分の長所・短所などを課題に出され、パソコンから提出し、提出したものを受講している生徒たちで見て回し評価していくという授業内容でした。これから日本で就職活動をする私にとっては自分を見直す良い機会にもなり、授業中の短い時間に他人の書いたものを読み、評価もしなければならなかったもので、文章を読むのが早くなったと感じます。

韓国文化体験は、韓国の伝統的な太鼓を教えていただいたり、文化館に実際に行ったり、釜山の方言や韓国の伝統の遊びや食事について学びました。普通の授業では体験できないような韓国の文化をたくさん体験できとても楽しい授業でした。韓国の文化と比較して自国の文化を発表する機会が多かったのも、他の国の文化も知る良い機会にもなりました。

後期から通い始めた語学堂は、留学生活で一番の思い出と言っていいほど楽しかったです。同じ語学レベルの人たちと授業を受けられるため、発言もしやすく一番韓国語を使う機会があって自分の語学の伸びを感じることができました。

語学堂では文化体験もあり、秋学期はトンヨンにあるケーブルカーに乗りに行き、冬学期は大邱のE-worldという遊園地に行きました。文化体験といっても自由行動なので仲のいい友達みんなと回って良い思い出を作れました。

一年間韓国で生活して、海外の友達と関わっていく中で宗教や文化の違いを肌で感じました。ある友達と一緒に食堂行こうと誘ったら断食期間だから食べれないと言われた時は本当にそういうことをしているのだと衝撃を受けました。日本では食べないものをある国では普通に食べていたりとても驚くことが多かったのですが、自分が知らない見たこともない世界がまだまだたくさんあるということを実感しました。韓国語だけではなく、他の言語も学んで、いろんな世界を見たいと思うようになりました。

今までは授業中に自ら発言できなかったり、グループワークでも自分の意見や間違いを指摘できなかったのですが、留学を通してそれができるようになりました。

語学力だけでなく、人としても成長できた一年になりました。

良い先生方や良い友達に恵まれて、とても良い留学生活を送ることができました。

この経験がこれからどのように生かしていけるかを考えて、将来の夢を見つけたいと思います。

留学先	韓国・釜慶大学校
留学期間（半年/1年）	1年
留学開始時の学年	2年生（1年生の春休み時出発）
派遣先での受講した授業と時期 語学堂オプション授業の金額（釜慶大学校は学部の授業の受講が必須。語学堂の授業はタームを問わずオプションにつき授業料は有料）	■語学堂の授業 →□春ターム □夏ターム ■秋ターム（9月2日～11月14日）： KRW 600,000 ■冬ターム（12月2日～2月12日）： KRW 600,000 ■学部の授業 →■春学期（3月4日～6月24日） ■秋学期（9月2日～12月23日） →■現地学生メインの授業 ■留学生メインの授業
宿舎	■学生寮 →寮費に食事が含まれるか：3食分含む （入寮後に3食→2食に変更可能） →ルームメイトの国籍と人数：日本人1人 →水道光熱費も含んだ寮費： 1学期間（6カ月）で約 KRW 2,000,000 （寮費は現金払い） →夏休み・冬休みも寮に滞在できるか：滞在可能 滞在する際は寮に滞在申請をする必要があり、別途お金がかかる。 夏季期間：08.17～08.30 KRW85,680（食事なし） 冬季期間：12.24～02.14 KRW569,960（食事付1日2食）
スマホ・携帯電話はどうしていたか	現地で Wi-Fi ルーターをレンタル 金額：10カ月で KRW650,000
現地での資金調達はどのようにしていたか	・日本で manepa カードを作り、必要な現金は現地 ATM で引き出し。 ・買い物は主にクレジットカード決済
現地で困ったので日本で準備した方が良かったこと	・クレジットカード2枚以上あると便利 ・常備薬 ・日本食 ・お土産（韓国の友達や先生用に）

	大学の近くに大型スーパーがあり、必要なものは大体そこで揃えることが出来たので、便利でした。
留学を考えている後輩へ伝えたいこと	留学をする前に必ず準備しなければいけないことは沢山あります。ですが、私が一番大事だと感じたことは「留学を通して何を得たいのか」「留学中に何をしたいのか」など具体的な「目標」を設定することです。留学をすれば誰でも留学先の言語を習得できるわけではありません。事前に目標を設定することによって、留学中に大きく成長することが出来ます。 留学するにあたって沢山の不安を抱くこともあると思いますが、自分を信じて頑張ってください！

留学最終報告書:韓国 釜慶大学での留学を振り返って

私は韓国の釜慶大学に 1 年間留学をしたことで沢山のことを学び、成長することができた。特に成長したと感じるものは 3 つある。

まず、1 番成長したと感じるものは「韓国語力」だ。私は高校生の頃から韓国語を勉強しており、大学 1 年生になってから留学のために本格的に勉強を始めた。大学 1 年生の頃は大学での韓国語の授業や、外部の韓国語教室に通って韓国語を熱心に勉強した。自分の中ではこれくらい勉強すれば韓国では無難に過ごせるだろうと思っていたが、いざ韓国に行ってみると分からない韓国語が山ほどあった。留学初日は空港に着くや否や、どこに行けばいいのか分からず韓国人に話しかけたが会話自体がうまくできなかった。初回の授業では先生の話している言葉を全く理解出来ず、授業についていけなかった。自分は韓国語が得意だと思っていたが、実際はまだ未熟だと痛感し、留学中は以前よりも熱心に勉強をするようになった。

特に、秋学期から通い始めた語学堂の授業が 1 番韓国語の向上に繋がったと感じた。語学堂は 1 クラス約 15 人の少人数クラスで、毎日 50 分×4 で語彙、文法、会話などの授業を受けた。毎授業で知らない単語や文法が出てきて予習復習が大変だったが、新しい韓国語を知れる「嬉しさ」があり、とても楽しく授業を受けることができた。私が語学堂に通い始めた頃はクラスで 1 番韓国語が出来ない生徒だったため、よく先生に質問ばかりしていた。だが毎日必死で勉強した結果、最終的にはクラストップの成績で語学堂を卒業することができ、自分の韓国語の成長を感じた。

2 つ目に成長したと感じるのは「挑戦する力」だ。留学前の私は挑戦することを苦手としていた。なぜなら失敗が怖かったからだ。失敗したとき周りの人はどんな反応をするだろうか、どんな目で見られるだろうかといつも不安に思っていた。しかし、留学生活を送っていく中で自分から挑戦しなければ何も得ることが出来ないと考えるようになった。

そう考えるようになってからは授業中に積極的に発言をしてみたり、同じ授業を受けている人に話しかけてみたり、様々なことに挑戦するようになった。もちろん失敗したこともあったが、挑戦によって得たもののほうが何倍も多かった。

留学中に挑戦した中で特によかったと思うことは、現地学生メインの授業に参加したことだ。外国人メインの授業に比べると先生の話すスピードが速く、言葉遣いや訛りなどがあるため、韓国人に混ざり 1 人で授業を受けることはかなり大変だった。だがある日、授業中に分からないことがあり、隣に座っていた女の子に勇気を振り絞って話しかけると彼女はとても親切に教えてくれた。その後も授業でわからないことを教えてくれて、この授業を受けるたびに仲良くなっていった。最終的には彼女と 2 人で買い物や旅行をする程仲良くなり、留学を終えた今でも仲良しな「親友」になった。この授業を履修しなければ彼女に出会えず、自分から話しかけなかったら仲良くなることもなかったと考えると、挑戦してよかったと思う。

3 つ目に成長したと感じるものは「生活力」だ。今回私が考える「生活力」は家事など生活面においての能力のことだ。日本では実家暮らしのため家事などは母親がしてくれていたが、留学中は身の回りのことを全て自分でしなければならなかった。水回りの掃除や洗濯物の分別の仕方、お

金の管理方法など、わからないことの方が多かった。しかも、日本ではなく海外であるため、日本と全く異なることも多かった。だが、わからないからこそ自分で試行錯誤したり、周りの人と協力しながら「生活力」を鍛えることが出来たと感じる。

以上の3つが、私が留学中に成長できたことだ。留学前は韓国語のレベルが上がれば良いなとしか考えてなかったが、最終的には1人の人間としてレベルアップすることができた。また、学生のうちから海外での生活をすることによって視野も広がり、私の人生のターニングポイントになった。今現在は留学を終えて日本で生活をしているが、今でも韓国に留学してよかったと思う。留学で学び、成長したことは今後の人生でも役に立つことが多いはずだ。だからこそ、これからも留学で学んだことを活かし、もっともっと成長していきたい。

大学内の写真



大学から見える景色



留学先	韓国・カトリック大学校
留学期間（半年/1 年）	1 年
留学開始時の学年	2 年生（1 年生の春休み時出発）
派遣先での受講した授業と時期 語学堂オプション授業の金額（カトリック大学校は語学堂の春と秋タームの授業が必須。夏と冬タームはオプションにつき授業料は有料）	■語学堂の授業 →■春ターム（3月4日～5月10日） ■夏ターム（6月3日～8月9日）： 約9万円程度 ■秋ターム（9月2日～11月14日） □冬ターム ■学部の授業 →■春学期（3月上旬～6月下旬） ■秋学期（8月下旬～12月上旬） →■現地学生メインの授業 ■留学生メインの授業
宿舎	■学生寮 →寮費に食事が含まれるか： なし →ルームメイトの国籍と人数： 春学期：3人(日本人) 夏休み：3人(韓国人) 秋学期：2人(日本人) 冬休み：1 人 →水道光熱費も含んだ寮費： 3人部屋6カ月：約15万円 2人部屋6カ月：約18万円 →夏休み・冬休みも寮に滞在できるか： 学期はじめ、部屋の人数(2人/3人/4人)、期間(4カ月/6カ月)を選択する際に6カ月を選択すると長期休暇期間も滞在できる。4カ月を選択した人も後から2カ月追加することが可能だが、寮の整備期間(長期休暇期間はじめの1週間)は寮に滞在することができなくなる。その期間は自分で宿泊施設を予約しなければならない。(大学の宿泊施設もある。1泊400円程度)
スマホ・携帯電話は どうしていたか	日本から SIM フリー端末を用意して現地で SIM カードを購入 →金額など詳細：留学生向けのプランを利用した。 契約料 約500円/月

	電話番号あり(本人確認可能) 料金チャージして Wi-Fi なしでデータ通信可能 学校や寮をはじめ、韓国ではカフェや飲食店、地下鉄などでも Wi-Fi が利用できるためデータ通信を節約すれば契約料の月500円程度で利用できます。
現地で資金調達は どうしていたか	海外で引き下ろすことが出来る SMBC の口座作りまし。その口座に送金してもらい、海外カード対応の ATM で韓国ウォンで引き下ろしていました。
現地で困ったので日本 で準備した方が良かったこと	気を使って多くのものを準備していった荷物が多くなった。必要なものは韓国で揃うので、無理に準備しなくてもいい。 必要な人はレトルトの日本食品があればいいと思う。
留学を考えている後輩 へ伝えたいこと	留学中に一番悔しいことは金銭的な理由で我慢しなければいけない場面が一番悔しかったためお金は考えているより多く準備した方がいいと感じました。 もちろん留学中の学習で語学は上達するがスタート時点のレベルも必要だと感じたため、十分な準備が必要。到着後すぐにテストがあります。

留学最終報告書

2019 年 2 月から一年間韓国カトリック大学に留学しながらさまざまなことを学んだ。

語学堂は春学期(3 月 4 日～5 月 10 日)、夏学期(6 月 3 日～8 月 9 日)、秋学期(9 月 2 日～11 月 14 日)の三学期分の授業を受けた。当初は夏学期を受ける予定はなかったが春学期の 2 級を修了した後さらに韓国語の学習をしたいと考え、大学の夏休みも利用して夏学期も語学堂に通った。三学期分の語学堂の授業を受け 4 級まで修了した。語学堂では様々な国籍の学生と共に韓国語の学習をした。韓国で生活しているため、韓国語の習得や韓国の文化や習慣への理解を深めることはもちろんだが、中国、台湾、ベトナム、ネパール、イタリア、フランスなどの国籍の友達と過ごすことで、韓国に限らず様々な国についてのことを知ることができ、さらに日本のことについてもたくさん伝えることができた。語学を身に着けるために積極的に韓国人と話して覚える、ということを目指していたが、韓国に来てからはじめは韓国語で話すことに「間違えているかもしれない」という気持ちを消すことができず、なかなか韓国人との会話に積極的に入っていくことができなかった。その時期に韓国語を多くアウトプットすることができたのが語学堂での授業時間や、語学堂のほかの国の友達との時間であった。台湾人やベトナム人の友達とは失敗を恐れずに積極的に会話をすることができたため、間違うことを恐れずに韓国語を使えるようになった。

大学生活は大変充実した毎日を送ることができた。大学の授業や個人的に加入したサークルでできた韓国人の友達との生活では韓国の生活や雰囲気より感じるすることができた。

韓国生活での悩みや困った際助けてくれた友達で日本語を学んでいる人が多く、韓国語と日本語を教えあっていた。韓国留学に出発した時点では 12 月には日本に帰国する予定であった。しかし春休みも言語交換をしながら韓国についてもっと知りたいと思い、帰国を 2 月までのぼすことにした。1,2 月はもう授業がないため自分がやりたいことを精一杯することができた。私の長所は行動力があることであるため、行ってみたいところや気になることができたらずぐ一人で行くことができた。韓国での学校生活や友達との時間はもちろん、自身の趣味活動まで、毎日充実した日々を送ることができた。

家族や友達が韓国に来た際には韓国を案内しながら過ごした。また、知人の知人にガイドをしてほしいと頼まれ、韓国のガイドを数回した。その時、誰かの旅行が素敵なものになるよう、手伝うことのやりがいを感じ、さらに良い思い出を作りたいと思うようになった。ガイドをしながら初めて知ることも多く、家族旅行の時間を共にできることの素晴らしさに気づき、そのような仕事をしたいと考えるようになった。

帰国後は 7 月の TOPIK 試験に向けて引き続き語学学習に励んでいきたい。また、元々興味があった方言や若者言葉、昔の言葉も学んでいきたいと考えている。

距離が近く、似ているようで日本とは違う韓国の多くの事について感じた。また、韓国について知れば知るほど日本の良さを改めて感じる点も多くあった。留學生活中盤、韓国と日本の情勢の悪さに悩むこともあったが韓国で生活をしていながら国の問題で嫌な思いをしたことはなかった。自分自身が気にしすぎているせいなのか、いつも以上に人の温かさを感じることもできた。韓国

では知らない方に話しかけられることが多々あり、話しかけられたときは日本人と気づかれて大丈夫か、と不安になることもあったが優しく話をしてくれうれしさのあまりおじさんと話しながら涙したこともあった。

一年間の韓国生活を通して韓国について多くを知ることができたと思うとともに、これからさらに知りたいと思うことが増えた。初めての海外生活であり、初めて家族と離れての生活で毎日が新鮮な日々を過ごすことができた。このような有意義な一年間を過ごすことができたのは多くの支えがあったからであり、そのような環境で生活できたことに感謝の気持ちを忘れず持ちつづけて生活していきたい。特に家族への感謝は言葉だけでなく、態度や行動でも表していきたい。

留学先	韓国・カトリック大学校
留学期間	1 年
留学開始時の学年	2 年生（1 年生の春休み時出発）
派遣先での受講した授業と時期 語学堂オプション授業の金額（カトリック大学校は語学堂の春と秋タームが受講必須。夏と冬タームはオプションの受講につき有料）	■語学堂の授業 →■春ターム（3 月～5月中旬） □夏ターム（6 月～8月中旬） ■秋ターム（9月～11月中旬） □冬ターム（12 月～2月中旬） ■学部の授業 →■春学期（3 月上旬～6月中旬） ■秋学期（8 月下旬～12月中旬） →■現地学生メインの授業 □留学生メインの授業
宿舎	■学生寮 →寮費に食事が含まれるか： 食事提供なし。おもに電子レンジ調理 →ルームメイトの国籍と人数： 最初は三人部屋で韓国人二人。その次は二人部屋で日本人一人。 →水道光熱費も含んだ寮費： 学期ごと 三人部屋→約 9 万 二人部屋→約 11 万 →夏休み・冬休みも寮に滞在できるか： 申請すれば可能
スマホ・携帯電話はどうしていたか	日本から SIM フリー端末を用意して現地で SIM カードを購入 →金額など詳細：容量がなくなるたびにいくらかはらって使った。金額は覚えていない。
現地での資金調達は どうしていたか	国際デビットカードを作り、日本の親から毎月決まった値段を振り込んでもらっていた。
現地で困ったので日本で準備した方が良かったこと	食料品で日本でしか買えないものなどがあるので、そういうものは買っていったほうがよかったと思った。 ほとんど困ることはなかった。

留学を考えている後輩 へ伝えたいこと	現地にいると韓国人の友達作りが意外と難しいので韓国人の友達をたくさん作りたい方は、サークルに入ることをお勧めします。一人だととても心細いとおもいますが、韓国人みんな優しいので日本にもともと興味のない韓国人でも仲良くなれます。なので勇気を振り絞ってサークルに入るといいです。韓国人の友達を多く作ったもん勝ちです。これから留学に行く子は頑張ってみてください。待つのではなく自分から動くことが大事です。
-----------------------	---

留学最終報告書：留学をしてみて

私が韓国の大学へ留学したことによりいろいろな発見を見つけることができた。特に私は積極性の重要さだ。

留学中、学習に対する積極性はもちろんだが、その他いろんな面でも積極性が必要だということがわかった。具体的に二つの積極性を挙げる。

一つ目は、友達作りへ対する積極性だ。私はもともと人見知りをする性格で自分から声をかけて友達を作るのはとても苦手な方だったのだが、ある友人に「留学して現地の友達が欲しいのであれば、待つのではなく自分から動き自分から行動しなければ、現地の友達はできない」と言われたのをきっかけに、私は自ら韓国人の友達を作る試みを始めた。語学堂だけでは韓国以外の外国人の友達しかできないため、発音など間違った覚え方をし、ネイティブには近づけない。よりネイティブに近づくためには、やはり現地の人との交流が必要なのだ。そこで私はほぼ韓国人だけのバスケットボールのマネージャーをやることにした。韓国人だらけで少し不安ではあったが、優しい人ばかりで、すぐ馴染むことができた。懇親会や合宿などサークルのイベントにも積極的に参加して韓国の大学を肌で感じ、韓国人との交流へ対する積極性が大事だ。

二つ目は、授業に対する積極性だ。これは留学中のみならず日本での大学生活にも共通するものだろう。特に語学堂では先生からの質問には積極的に答えると頭に入りやすく、覚えやすいということに気づいた。語学堂の授業はもちろんすべて韓国語で行われるため、わからない韓国語などざらにある。その場合わからないからといってそのまま放置するのではなく、その場で先生に聞くことで授業中に質問したという点も含めやはり覚えるスピードが違うため、私は授業中にわからないことがあればその場で聞くように心がけたりした。そうしていくうちにどんどん周りとの差をつけることができる。このような積極性もとても大事になってくる。

これまで大事な積極性を二つあげたが、この二つを意識するだけで語学力の伸び方は絶対に変わってくるだろう。これから留学する学生はこの二つをぜひ意識して留学生活を送ってほしいと思う。

私が海外で10カ月という長い期間一人で暮らすのは初めてだったので不安だったが温かい人たちに囲まれ、過ごしやすい環境のおかげで、一度もホームシックになることもなく、本当に楽しい時間を過ごすことができた。今まで生きてきていろいろな学校生活を送ってきたが、一番楽しかったと言い切れるくらい楽しく充実した時間を過ごせた。韓国語力も上がり、前よりも会話することが楽しくなり、自分でもやっと成長を感じられた。

今回の韓国留学ができたのは、支えてくれた人たちのおかげであり、今回のこの経験が無駄にならず、しっかり生かせるようにこれからも気を抜かず過ごしていきたいと思う。

留学先	韓国・カトリック大学校
留学期間（半年/1年）	1年
留学開始時の学年	2年生（1年生の春休み時出発）
派遣先での受講した授業と時期 語学堂オプション授業の金額（カトリック大学校は語学堂の春と秋タームの授業が必須。夏と冬タームはオプションにつき授業料は有料）	■語学堂の授業 →■春ターム（3月～5月中旬） ■夏ターム（6月～8月中旬）：10週約9万円（現地で現金払い） ■秋ターム（9月～11月中旬） □冬ターム（12月～2月中旬） ■学部授業 →■春学期（3月上旬～6月中旬） ■秋学期（8月下旬～12月中旬） →■現地学生メインの授業 ■留学生メインの授業
宿舎	■学生寮 →寮費に食事が含まれるか：食事提供無し。主に近所の食堂や出前を利用した。寮にキッチンはあるが事前予約制。 →ルームメイトの国籍と人数： 最初の3か月は日本人同士で三人部屋、次の3か月は台湾人と二人部屋、後半の半年は韓国人と二人部屋だった。ルームメイトは同じ国籍同士になるように組まれている場合が多い。 →水道光熱費も含んだ寮費： 寮費は学期ごとの支払いで、水道光熱費が別で請求されることはない。何人部屋かによって値段が変わる。 4ヵ月：2人部屋/約12万円 3人部屋/約10万円 4人部屋/約8万円 6ヵ月：2人部屋/約18万円 3人部屋/約15万円 4人部屋/約12万円 →夏休み・冬休みも寮に滞在できるか： 入寮後に行われるアンケートで滞在希望と回答すると可能。ただし、アンケート回答後に滞在の申請をすると、休み前に一度荷物を部屋から全部出して数日間寮を出なければならなくなるため注意。また、アンケートで滞在希望と回答し、夏休みもそのまま滞在したが、夏休みの最後の1週間は寮の清掃などの関係で一度出なければならずホテルに宿泊しなければならなかった。寮の公示をこまめにチェックし、わからないことはすぐ寮の事務室で確認することをおすすめする。

スマホ・携帯電話はどうしていたか	現地で新たに契約・購入 →金額など詳細： JK モバイルでLTE プリペイド契約。韓国銀行口座からの支払い。基本使用料 1 日/165 ウォン+月毎のモバイルデータチャージ料金 (500MB:8800 ウォン、1GB:14300 ウォン、2GB:19800 ウォン) チャージ金額分通話、SMS、データ利用可能。データ量はレンタルした Wi-Fi で十分だったが、韓国の電話番号が必要な機会が多かったため契約した。 その他 (Wi-Fi レンタル：グローバル Wi-Fi の留学プランを契約。大容量プラン 約 12 万円)
現地での資金調達は どうしていたか	海外専用プリペイドカード(マネーティークロールド)を作り、日本の親から適宜当該口座にお金を入れてもらっていた。カード 1 枚でクレジット決済もでき、韓国の ATM で現金を引き出すこともできたため便利だった。
現地で困ったので日本で準備した方が良かったこと	困る、というよりは韓国で生活し続けていると日本食が恋しくなるときがある。韓国でも日本の食品が売られているが高いため、荷物に余裕があれば日本で買って持っていくことをおすすめする。(お菓子は韓国人へのお土産としても喜ばれる。)
留学を考えている後輩へ伝えたいこと	できる限り韓国語を勉強していくことをおすすめします。現地での生活が始まってすぐに語学堂のレベル分けテスト(筆記+簡単な面接)があり授業もすぐ始まるので、ついていけるように準備をして行くと良いと思います。また、後悔のない留学生活を送るために、留学の間に自分は何をしたいのかを考えておくこともおすすめします。例えば TOPIK のO級をとりたい、国内旅行をしたいなど小さなことでもやりたいことをリストアップし、一つずつ実行していくとより充実した留学生活を送れると思います。私は 1 年留学しましたが、帰国の 2 か月前ほどになって、いつかやろうと思ってやっていたことがたくさんあることに気づき、もっと早くやればよかったと少し後悔している部分もあります。韓国にいるからこそできる、韓国の学校に通っているからこそできる貴重な体験を逃さずどんどんチャレンジしてみてください。

寮の写真(一部ぼかしている部分があります。)

二人部屋 机、ベッド、棚



寮の休憩室



留学最終報告書：1年間の留学を振り返り感じた自分の成長

韓国カトリック大学での1年間の留学を通して自分のためになった経験について勉強、自分自身、周りの環境の3つに分けて紹介します。

勉強について語学の面ではまず、1年間で悔いなく勉強することを目標としました。語学堂の授業の予習復習はもちろん毎日しっかり行い、バディー制度を利用して積極的に韓国人と話す機会を作っていました。授業では TOPIK の対策問題を解いたり、プレゼンテーションや上級のクラスでは討論をするなど内容も様々でした。先生方も親切で1クラスあたりの人数が少ないため、一人一人しっかり見てくださり安心できる環境でした。語学堂の期末試験は毎回万全に準備をして取り組んだ結果、良い成績で終わることができ、奨学金もいただくことができました。また、留学前に目標としていた試験にも合格し、自分の努力が実って韓国語の力がついたことを実感し、大きな達成感がありました。

学部授業では、前期はまだ韓国語で授業を聞くことに不安があったため、日本語学科の授業を履修しました。日本語だから、という単純な理由で履修した科目でしたが、韓国人が間違えやすい日本語や日本語のこの言い回しは韓国語ではこう話す、といった韓国人目線の日本語を学ぶことができました。作文の課題があった時はネイティブの私たちが文章の添削をして、外国人に日本語を教えるという良い経験ができ自分自身も勉強になりました。後期は、韓国語の聞き取りが慣れてきたこともあり、韓国人に混じって経済の科目と韓国語の理解を深めたかったため外国人向けの韓国語の科目を履修し日本の大学ではあまりないグループワークを多く経験しました。

自分自身の成長を感じられたことは、まず1つ目にチャレンジ精神です。留学前、わたしは消極的で失敗を恐れてしまい挑戦ができない性格でした。韓国に来て寮生活に慣れることから始まり、最初は言葉が通じなかったら、と考えてしまい話すことすらも怖く、これから1年間やっていけるのだろうかと不安になりました。しかし、一人で近所のカフェに行ってみるなど小さなことから挑戦していくにつれて自分に自信が持てるようになりました。そこから、一人ということにも不安を感じなくなり、韓国語の力がついてきたこともあり最終的には一人でどこにでも出かけるようになるほどの自信を持つことができました。また、留学生が韓国の学生に向けて自分の国で読まれているおすすめの本を紹介する、という行事があり参加しました。自分の紹介文が大学内に大きく飾られるということでやるか最初は迷いましたが挑戦してみたところ、その展示を見た韓国の学生から何通もの手紙をもらい、やって良かったと心から思えました。この経験から、小さなことでも思い切ってやってみることが大事でありその結果が自信につながるということを身をもって知ることができました。

自分の性格も明るくなったと感じています。前でも書いたように、留学前の私は消極的で自分から話しかけることもできませんでした。後半の半年は他の国の人と仲良くなる機会が多く、語学堂で同じクラスになった友達同士で毎日のように一緒にご飯を食べに行ったり遊んだりしながら国を越えてみんなが仲良くなり、たくさんの思い出を作ることができました。常に明るい周りの友達のおかげで今まで出せていなかった自分がどんどん出せていることを感じ周りからも変わった、

明るくなったと言われるくらいに自分を良い方向に変えることができました。帰国後の今も連絡をとって先日みんなでテレビ電話で近況報告をし、他の国の友達ができこまで仲良くなれたことは自分の中で嬉しい大きな経験になりました。それには友達同士でコミュニケーションをとるために共通語である韓国語を積極的に話そうとすることが必要でした。この経験のおかげで韓国語の話す力がぐんと伸びたことを感じました。

実際に韓国で生活して周りの環境から感じたことは、日本人に対して優しくしてくれる人が想像していたより多いことでした。歴史や政治の問題で韓国人からひどい扱いをされたということを耳にしており、大学付近は旅行客が訪れないような場所であったため少し心配もありました。しかし、その心配とは反対に私が日本人だとわかると日本語で話しかけてくれたり、日本が好きと言ってくれる人が多くいて嬉しかったです。また、様々な国の人と出会い、日本との文化の違いを感じることも多くあり、寮生活をしていく中で少し大変だと思う部分もありました。しかし、そのおかげで日本を外の視点から見ることができ、世界に対する関心もより大きくなりました。

この留学生活で 1 年という限られた時間、また現地に行ったからこそできたたくさんの経験のおかげで多くのことを学び、成長して帰国することができました。この経験を将来に活かしていこうと思います。

留学先	韓国・カトリック大学校
留学期間（半年/1年）	半年
留学開始時の学年	2年生
派遣先での受講した授業と時期 語学堂オプション授業の金額（カトリック大学校は語学堂の春と秋タームの授業が必須。夏と冬タームはオプションにつき授業料は有料）	■語学堂の授業 →■秋ターム（9月2日～11月14日） ■冬ターム（12月2日～2月13日）：約9万円 ■学部授業 →■秋学期（9月～12月） →■現地学生メインの授業 □留学生メインの授業
宿舎	■学生寮 →寮費に食事が含まれるか： 含まれない。共有キッチンがあったが1日1組予約制であったため使用しなかった。外食かレンジ調理ができるものを主に食べていた。 →ルームメイトの国籍と人数： 4人部屋で日本人1人、韓国人1人、ベトナム人1人 →水道光熱費も含んだ寮費： 月ごとではなく半年間の金額をまとめて最初に払った。水道光熱費も含め約11万円。 →夏休み・冬休みも寮に滞在できるか： 冬休みも語学堂に通っていたため滞在していた。
スマホ・携帯電話はどうしていたか	SIMカードを購入したり現地で新たに契約したりせず、Free Wi-Fiに繋げて使用していた。（この方法で半年間過ごすことができたが、Wi-Fiがあるとどこでもしか使用することができなかったのが少々不便ではあった。）
現地で資金調達はどのようにしていたか	Visa デビットカード（ゆうちょ銀行）を作り、親から適宜口座にお金を入れてもらっていた。
現地で困ったので日本で準備した方が良かったこと	普段自分が飲み慣れている日本の風邪薬や痛み止めを多めに持って行けばよかった。風邪をひいたときに風邪薬が無くて、困ったことがあった。
留学を考えている後輩へ伝えたいこと	留学前にできるだけ勉強をしてください。ハングル文字を読み書きすることができる状態であることは最低限必要で、そこから知っている単語を増やしたり、韓国語での会話を聞いて耳を慣らしたりなど、自分なりの方法で勉強をしてください。韓国のドラマを見たり、バラエティ

	一番組を見たりすることがおすすめです。しかし、ただ字幕を付けて流し見るだけでなく、音声と字幕を照らし合わせて意味を覚える、シチュエーションごとの言葉のフレーズを意識して見るなどするとより勉強になります。現地に着いたらすぐに韓国語が飛び交う環境で生活していくので、韓国語力がほとんど無いとなかなか行動することができず、現地の人とのコミュニケーションも難しいと思います。留学期間は一瞬に感じるくらいすぐに終わってしまうので、その時間をより充実したものにするために、留学前に勉強をして少しでも韓国語力を上げてほしいです。
--	--

留学最終報告書：半年間の留学を振り返って

韓国カトリック大学校への半年間の留学は非常に良い経験で、自分の大きな成長となった。なにより実際に韓国に身を置いて韓国語を学んだことで、韓国語力を大きく上げることができた。今まで日本で勉強していた環境とは違い、生活の中で目にする文字も韓国語であり、話されている言語も韓国語であった環境のおかげで無意識的にも韓国語に慣れることができた。語学堂の授業はもちろんすべて韓国語で行われ、国籍の違う同じクラスの友人たちとのコミュニケーションも韓国語で行うため、リスニング力もスピーキング力も鍛えられた。また、語学堂の授業の他に大学の授業を取っており、そこで実際に現地の大学生と一緒に授業を受けたことでも韓国語力を付けることができたと思う。大学の中だけでなく、外でも自主的に韓国人と遊び、ネイティブと会話をする機会を作っていたことも良かったと思う。

留学生活の中で特に記憶に残っていることは語学堂である。語学堂ではさまざまな国籍の友人たちと一緒に授業を受けており、それぞれの国民性の特徴を見ることができた。私が一緒に授業を受けていた人は日本人の他に、中国人、台湾人、ベトナム人、タイ人、フランス人がいた。みんな明るく優しく面白い人たちで、授業中にたくさん笑わせてくれた。日本に興味を持ってくれている人が多く、日本のことについていろいろ質問してくれたり、日本を好きだと言ってくれたことがとても嬉しかった。そのおかげで私も友人たちの国のことに興味を持つようになった。毎学期末にやるテストの中に、決まったテーマについてみんなの前で発表するというものがあった。そのテーマには自分の国の食事や伝統行事、冠婚葬祭についての紹介などがあり、それを通してでも国ごとの特色を知ることができた。私も発表の準備は力を入れて、日本の魅力を伝えられるような発表ができたと思う。私の発表を聞いて友人たちが良いリアクションをしてくれたときは、頑張って準備をして良かったと思った。それに加え語学堂には、語学堂に通う学生だけが参加する韓国語フェスティバルがあった。それは級別のクラスごとに発表をしたり、歌を披露したりするもので、私たちのクラスはみんなで歌を歌うことになった。練習をしていく中でお互いの伝えたいことが上手く伝わらないときもあり大変だったけれど、本番では毎日の練習の成果が発揮でき、3位を取ることができた。みんなで力を合わせてひとつのことをやり遂げられた達成感があり、賞まで取ることができてとても嬉しかった。この経験で、いくら時間がかかってもお互いの気持ちをしっかりと理解し合うことで良い結果に導くことができるということを感じた。国籍が違うならばなおさらしっかりと意思疎通することが大事だと思った。

留学生活の中で大変だったことは文化の違いである。私は寮の4人部屋で生活していたが、ルームメイトと生活スタイルや価値観が違うことでストレスを感じるが多かった。国独自の文化や生活スタイルがあることは理解できるが、日本と大きく異なる文化には困ってしまうことがあった。最初は黙って耐えていたが、最終的には耐えきれずに不満をぶつけてしまった。しかし、そうしたことでルームメイトが私の不満に気づき、直すように努力してくれた。これも前の話のように、思っていることは言わないと伝わらないし、正直に言うことでものごとは良い方向に進むのだと体感した経験だった。韓国の街でも文化の違いを感じるがあった。韓国は日本に比べてせっかち

な国民性で、バスでは乗って座る前に発車したり、地下鉄で並んでいても早く乗らないとドアを閉められたりしたことがあった。そのような文化にはじめは慣れず、あまり良い思いをしないときもあった。しかし、そのようなことばかりでなく、日本よりも温かく親しげに声をかけてくれる方が多かったり、飲食店でたくさんサービスをしてくれる店員さんがいたり、人の優しさを感じる瞬間が多かった。自分と合わないところばかりを意識するとすべてが悪く感じてしまうが、少し目線を変えるだけで良いところがたくさん見えてくると感じた。自国の文化を押し通すのではなく、生活している国の文化を受け入れ、馴染んでいくことでより良い生活をするができると思った。

半年間の留学生生活を振り返ってみて、楽しいことばかりでなく大変なこともたくさんあったけれど、それも自分にはプラスになったと感じる。さまざまな経験を通して新しいことを学び、それを吸収して自分の強みにできた。また、自信を持って行動を起こせる人になったと思う。この留学で得たことを、これからに生かしていきたい。最後に、留学生生活を良い環境で始められるようにお手伝いしてくださった白百合の先生方、いつも楽しい授業をしてくださり支えてくださったカトリック大学校の先生方、一緒に勉強も遊びも頑張った友人たち、そして私を信じて送り出しいつも見守ってくれた家族に大きな感謝を贈りたい。

留学先	韓国・カトリック大学校
留学期間（半年/1年）	半年
留学開始時の学年	2年生
派遣先での受講した授業と時期 語学堂オプション授業の金額（カトリック大学校は語学堂の春と秋タームの授業が必須。夏と冬タームはオプションにつき授業料は有料）	■語学堂の授業 →■秋ターム（9月2日～11月14日） ■冬ターム（12月2日～2月13日）：10週約9万円 ■学部授業 →■秋学期（9月～12月） →■現地学生メインの授業 □留学生メインの授業
宿舎	■学生寮 →寮費に食事が含まれるか：食事提供なし、共同フロアに電子レンジが設置されているため自炊は出来ないが簡単な調理・温めは可能。 →ルームメイトの国籍と人数：4人部屋で日本人2人と韓国人1人、ベトナム人1人だった。韓国人と同部屋だと韓国語は上達する。神経質な人には4人部屋はおすすめしない。 →水道光熱費も含んだ寮費：12万円（4人部屋で半年間分） →夏休み・冬休みも寮に滞在できるか：入館日に正しく手続きすればできる。入館手続きをしっかりとしないで後々大変そうな生徒が結構いたので、手続きはしっかり、丁寧にすること。
スマホ・携帯電話はどうしていたか	日本で使っていた携帯をそのまま機内モードにして半年間使用。韓国には至るところにWi-Fiがあるのでそこまで不便に感じなかったが、契約して外出時にも使えるようにした方が安全なのは確か。
現地での資金調達はどのようにしていたか	デビットカード（mijicaカード）とクレジットカード（セゾンカード）を使用。 どちらもアプリをダウンロードして、オンラインで管理しておくとう安全。どれくらい使用したか、あとどれくらい使えるか等を頻繁に確認しておいた方が良い。 月に使った分を、引き落とし日前日に両親に振り込んで貰っていた。（月2～3万円程度）

現地で困ったので日本で準備した方が良かったこと	こだわりのものがある！というものが無ければ、基本現地調達で問題ない。
留学を考えている後輩へ伝えたいこと	留学前にどのような留学生活を送りたいのか、明確な計画と目標を持って出発することをおすすめします。（帰国後 TOPIK 5 級以上取得・現地で交流会参加 等）また、留学前に初級韓国語が出来ていることは基本と置いていいくらいに大切です。現地に行ったら話せるようになるということではなく、現地でも自身の努力と根性は必要になってきます。留学前にも頑張っていた人が、現地でも大いに成長でき良い結果を出せる印象を受けます。

留学最終報告書

私が留学したカトリック大学校では、様々な国からの留学生が在籍し、交換留学生であれば、語学堂の韓国語による韓国語の授業を受けられる。他にも、午後には大学の講義も受講出来るので、韓国語にフォーカスして学ぶことが出来た。他にも郊外学習として、ソウルランドという遊園地に行ったり、留学生全員で映画館を貸し切り、映画鑑賞をしたりした。季節に合わせた様々なイベントがあり、留学生同士でも十分に交流を深められる環境であった。終了式は盛大で、語学堂のクラスごとに歌やダンスなどの出しものを用意し、優秀生徒には記念品などもある。生徒同士で切磋琢磨し合いながら学べる環境であったと自信をもって言える。宿舎では、食事がついていないことを心配していたが、韓国の外食は日本に比べて格段に安いので毎日外食をしても生活費にそこまで負担はかからなかった。食事がついていないので、日々「夜、皆で〇〇食べに行くけど一緒に行かない？」と誘われることが多く、コミュニティの輪が広がり、普段関わることが難しい他クラスの子とも仲良くなれるので、皆との外食は1日の楽しみでもあった。大学内には、書店・銀行・コンビニ・カフェ・ファストフード店などが完備されており、大学を一步出れば飲食店が並ぶ華やかな学生街が構えている。また、大学内には大きな自習室や英語のみ話すことが許される学生が運営するスタディーカフェ、仮眠がとれるソファやベッドも備えられている。警備もしっかりしており、学生証を機械にかざして出入りするの、学生証は常に携帯しておかないと共同スペースや設備、教室等を利用出来ないことが多い。こんなにも快適に学業に専念出来る大学に通えることが出来て、とても誇りに思う。

韓国での生活は毎日が冒険で、生活していくうちに努力する人が多い国であると感じた。朝が早く夜も遅くまで行動する人が多い韓国では、眠気覚ましのコーヒーが必須で消費率も米国、中国に続いて3位を誇るそう。人口が上位の2国と差があるにも関わらず、凄い結果である。そんな寝ることも惜しまず努力をする姿勢に圧巻されながらも、私自身も夜遅くまで、出来る限りの努力をした。朝も早いので、1日が無駄なく送っていたなと今振り返っても思う。授業では韓国人の友達もたくさん増え、放課後には女子同士他愛ない話をしたり、カフェでゆっくり今後について語り合ったりしていた。このような当たり前のようで当たり前ではない日常によって今まで表現出来なかった会話表現や、聞き取り理解に磨きをかけられたと思っている。韓国語での会話が何の支障もなくスラスラと話せるようになったのは、つたない韓国語でも最後まで聴いて受け答えしてくれる友達がいたからこそであり、一緒に支え合える語学堂の仲間がいたからである。大学のテストも語学堂の中間テストが行われる期間は部屋やカフェなどで復習・予習をしていた。朝早くから夜遅くまで頑張る韓国学生のレベルの高さに刺激を受けながら、私自身も頑張れた。現地にいる時は、自分の成長を目に見えては分らなかったが、身近にいる友達がきちんと評価してくれたので、常に向上心を持って何事にも取り組むことが出来た。

今回の留学は、私が生きてきた中で一番素敵な経験であり挑戦し続けた半年間であった。夢であった韓国留学を承諾してくれた両親にも感謝しながら、この経験を将来に活かしたいと強く思うようになった。留学は語学力を身に付けるだけでなく、私の価値観までもを変えてくれた。帰国後

は、韓国料理屋さんでアルバイトを始め、日常に韓国語を取り入れようと韓国人の従業員と積極的に韓国語で会話をしている。また、韓国語弁論大会に挑戦した際は、大賞を受賞することも出来た。自身の留学経験のおかげで、韓国語の上達のみならず、様々なものに挑戦することの楽しさや、努力を惜しまない謙虚な姿勢の大切さを学ぶことが出来た。

留学先	韓国・誠信女子大学校
留学期間（半年/1年）	1年
留学開始時の学年	2年生（1年生時の春休みに出発）
派遣先での受講した授業と時期 語学堂オプション授業の金額（誠信女子大学校は語学堂の春と秋タームの授業が必須。夏と冬タームはオプションにつき授業料は有料）	■語学堂の授業 →■春ターム（3月11日～5月17日） □夏ターム ■秋ターム（9月16日～11月27日） □冬ターム ■学部の授業 →■春学期（3月4日～6月18日） ■秋学期（9月2日～12月25日） →□現地学生メインの授業 ■留学生メインの授業
宿舎	■学生寮 →寮費に食事が含まれるか：食事提供なし。部屋についているキッチンで自炊していた。 →ルームメイトの国籍と人数：前期→台湾人1人 アメリカ人1人 （2人部屋・ルームメイトの入れ替えがあった） 後期→日本人1人 →水道光熱費も含んだ寮費： 前期は157,500円（保証金15,000円／保険料4,017円）で、これは長期休み（夏休み）を含めない金額です。後期にも寮費を払いましたが、後期は約13万円でした。 ※毎月払うのではなく、入寮前に一括で157,500円振り込む形。 ※後期も同様。 →夏休み・冬休みも寮に滞在できるか：申請し、お金を払ったら滞在可能。

スマホ・携帯電話は どうしていたか	現地で新たに契約・購入 →金額など詳細： 1 年契約の SIM を購入。最初に 1 万円を払って、前もってチャージした金額分だけデータ通信や通話が可能。チャージ金がなくなったらその都度振り込む。
現地での資金調達は どうしていたか	現地での資金国際デビットカード（ジャパンネット銀行）を作り、親から適宜、当該口座にお金を入れてもらっていた。
現地で困ったので日本 で準備した方が良かったこと	風邪を引いた時や熱を出した時の薬などが、日本のものと成分等が違うため日本製の自分に合ったものを持っていけば良かった。
留学を考えている後輩 へ伝えたいこと	日本語が話せる先生がいないため、最初から韓国語でコミュニケーションをとらなければなりません。韓国語が理解できるに越したことはないですが、まだそのレベルに達していなくても相手の言っていることを理解しようとする姿勢が大事だと思います。間違えることが恥ずかしい・自分の言いたいことが言えない・相手の言葉が理解できず会話できない、などの心配や不安があっても、それも含め積極的に話すことが早く上達する道だと思います。

留学最終報告書：1年間の留学を振り返って

1 年間韓国の誠信女子大学に留学して貴重な経験をし、多くのことを学ぶことができました。特に自分の成長につながった点について 3 つ挙げます。

1 つ目は留学を通して韓国語の上達はもちろん、積極的な自分を見つけることができたことです。私は挑戦することが大事だと分かっているにもかかわらず失敗を恐れ、消極的になってばかりいました。そのため留学が始まった最初の頃も“言葉が理解できない”“間違えたら恥ずかしい”などの不安や心配だけを考えて自分が思うようなコミュニケーションが出来ずにいました。しかしこのままでは成長しないと思い、自分から遊びに誘ったり、授業中のペアワークではただ教科書を練習するのではなく、ペアになった人の出身国についてや授業についてなど日常会話を通して様々な話をするように心がけました。日に日に頭で考えなくても自然と口から韓国語が出てくる感覚が分かり、上達しているのを身に染みて実感することができました。今まで、なんとなくでしか分からなかった相手の言葉が確実に理解できるようになり、本当に嬉しく達成感があつたのを覚えています。自分から行動した後の充実感を知っているため、帰国後の生活でも積極的に行動することを心がけています。

2 つ目は様々な国の人と交流する機会があったことです。留学前からバディの人と連絡を取り合い、現地に着いた日に 1 度会いました。その日は寮の説明や近くの店などの案内で終わりましたが、翌日からは生活用品を買いに行ったり学校生活のほとんどを教えてもらったりしました。またバディとは前期の半年間、週に 1 度勉強会をしていました。お互いがお互いの国の言語を学んでいるため、教えてもらう時は韓国語で、教える時は日本語で、自分たちが勉強したい教材を持ち寄って勉強していました。他にもよく出かけるなど、学校生活以外のこともたくさん教えてもらいました。後期の半年間は、チュータリングという日本語を勉強したい韓国人学生に韓国語で日本語を教える活動に参加していました。毎週 1 回以上 1-3 時間勉強をします。私とペアになった学生は日本に留学が決まっていて日本人の私でも説明が難しい教科書を一緒に勉強しました。初めの頃はひたすら韓国語での説明が難しく焦ってばかりいましたが、回数を重ねるうちに“どう表現したらわかりやすく伝わるか”に考えが変わり次第に慣れていきました。日常生活で使う言葉以外にも普段使わないような言葉や表現を自分で考えて学ぶことができました。他にも、日韓交流会というサークルで行っている活動や留学生対象の文化体験に参加したり様々な国の友達と遊んだりして、ここには書ききれないほどの交流をもつことができました。

3 つ目は出会う人々の大切さを知りました。中には自分と合わない人もいましたが、その人含め出会った人全てが私を成長させてくれる大事な人たちでした。たとえば日本人の友人たちは、留学生活で悩みやストレスを抱えた時、お互いに話を聞いたり聞いてくれたりする関係で辛いこ

とを一緒に乗り越えてきた戦友のような存在でした。留学しているからこそ分かる問題を理解してくれる相手に出会えて、それは本当に私の支えでした。そして韓国、中国、台湾、アメリカ、デンマークなど多国籍の友人たちとも関わりがありましたが、中でも親交が深かったのが韓国、中国、台湾の友人たちです。後期は日本人の友人よりこれらの国の友人たちと遊んだ回数の方が多いと思います。旅行をしたり活動に参加したり出かけたり、韓国語で話すため韓国語能力向上の面で私を成長させてくれましたが、1 番は相手の国のことを様々知ることができたのが私にとっての大きな成長でした。他国の友人と話していると私の知らない世界をたくさん知ることができます。

留学生生活を振り返ってみると、楽しいことばかりではなかった気がします。ですが、辛かったことも楽しかったことも全てが確実に自分のためになることばかりだと改めて感じました。留学する前は言語や文化を学びたいという目的で行きましたが、それらはもちろん、それ以上に得たものが多く、留学した 1 年間は私の人生で 1 番内容の濃い、充実した貴重な 1 年でした。ここで学んだことをこれからの大学生活、その先の生活にも活かしていきたいと思います。